

第7章 薬 事

1 薬局の処方せん受取枚数及び医薬分業率の推移 (表1、図1)

医薬分業は、推進のために様々な施策が実施された結果、薬局の処方せん受取枚数は年々増加し、平成30年度では約1,067万枚となっている。

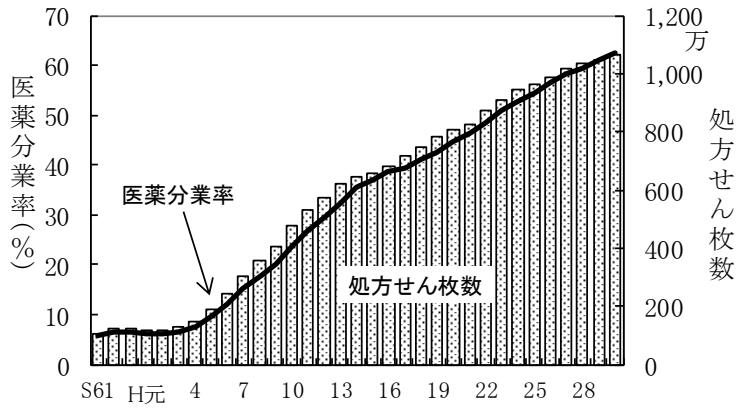
医薬分業率(処方せん受取率)は、平成30年度に62.6%となり、医薬分業は着実に進んでいる。

表1 薬局の処方せん受取枚数・
医薬分業率及び薬局数の推移
(各年度中・年度末現在)

年次	医薬分業率	処方せん枚数	薬局数
平成30	62.6	10,670,003	903
29	61.1	10,473,016	891
28	59.5	10,337,486	887
27	58.2	10,190,123	877
22	48.5	8,730,617	758
17	39.3	7,167,874	676
12	29.5	5,718,270	618
7	15.1	3,035,340	521
2	6.1	1,160,853	469

【出典】(社)日本薬剤師会ホームページ

図1 薬局の処方せん受取枚数及び
医薬分業率の推移



【出典】(社)日本薬剤師会ホームページ

$$\text{医薬分業率} = \frac{\text{薬局の処方せん受取枚数}}{\text{医療診療(入院除く)日数} \times \text{医療診療投薬率} + \text{歯科診療日数} \times \text{歯科診療投薬率}} \times 100$$

(処方せん受取率)

2 献血状況の推移 (表2、図2)

献血者数は、昭和60年度をピークに減少し、近年は増減を繰り返しながらもほぼ横這いの状態となっている。平成30年度は85,395人で、前年と比べ150人増加している。

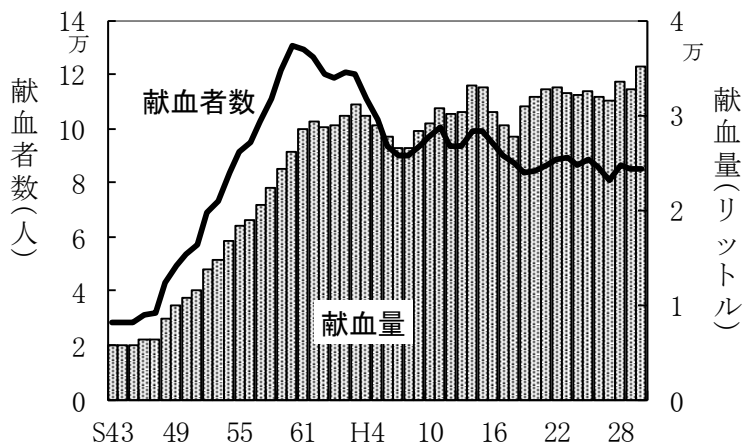
平成30年度の献血量は、35,111.0リットルで前年と比べ2,318.0リットル増加している。なお、平成11年度に献血可能年齢(血小板採血を除く)が、16~64歳から16~69歳に延長された。

表2 献血者数及び献血量の推移
(年度中、昭和60以前は年中)

年次	献血者数	献血量
平成30	85,395	35,110.0
29	85,245	32,792.0
28	86,662	33,459.0
27	80,969	31,431.5
22	88,820	32,971.3
17	90,290	28,840.9
12	93,582	30,034.3
7	89,790	26,543.3
2	120,422	29,989.8
昭和60	130,644	26,128.8
55	91,156	18,231.2
50	53,520	10,704.0
45	28,170	5,634.0

【出典】薬務課調

図2 献血者数及び献血量の推移



【出典】薬務課調